2面からのつづき

熊本県宇土市　中山　一市

戦後間もない昭和二十四年に昭和天皇は米軍の空襲で焦土と化した日本全土を巡行され、心身ともに打ち拉がれている国民に希望と勇気を与えられたことが鮮烈によみがえってきます。私の郷里でも天皇のお姿に接見したいと沿道を埋め尽くした人々から歓喜の声が地鳴りのように湧き起こってきたのを忘れることはできません。

時代は平成となり今上天皇・皇后両陛下が太平洋戦争の激戦地を訪ねられ、慰霊される姿や地震や台風等で大きな災害を被った土地に時をおかず訪問され、膝を折られて励ましのお言葉をかけられる姿に尊崇の念がわいてきます。その天皇陛下もやがて退位され皇太子殿下が継承されることが決まっているなかに、ご接見の栄誉にあずかり、子供たちの学力向上に寺子屋を開設して二十年近くなることに励ましのお言葉を賜りました。そのお言葉を心の糧として今後精進したいと思っています。

大阪府大阪市　市口　明彦

皇太子殿下のご接見の栄を賜り、心から感謝申し上げます。最高の一日でございました。

殿下との距離が近く感じられて、緊張致しました。

「子供の頃からボーイスカウトをしています。特に隊長経験を生かして、指導者訓練を担当してきました。」と申し上げました。殿下は、温かい眼差しで頷かれ、「ボーイスカウトは何年やられていますか？」と、お尋ねがありました。

「六十五年になります。ジャンボリーなどで、いつも温かい激励のお言葉をいただき、ありがとうございます。」と、お礼を申し上げました。

すぐに、「日本ジャンボリー・世界ジャンボリーには、行かれましたか？」とお尋ねがありました。

ジャンボリー会場で、お車からお手を振っていただいたことを思い出しながら、「はい、行きました。」と笑顔でお答え致しました。

殿下もにっこりされて、「健康で長生きされることを祈ります。」とのお言葉を賜りました。

次の日の朝、七月から長引いていた『七十五歳の五十肩』が、不思議なことに良くなっていました。

愛知県あま市　永津　碩子

台風二十二号も過ぎ去り、穏やかな日に皇太子殿下のご接見の栄を賜りありがたく感謝申し上げます。

明治記念館で写真撮影、お食事のあと東宮御所に向かいました。森に囲まれた玉砂利を踏みしめ御所へ、ご接見の間に向かいました。

最前列最後の席に座り、段々近づいてこられる殿下に、胸はドキドキしてまるで雲の上にいるような気持ちでございました。

前に立たれた皇太子殿下はソフトな包み込むようなお声で「何をされてますか」とご下問されました。「子供たちの下校時に見守り家まで送っております。また、近所のお年寄りの集会の場で、ゲームや歌を歌ったり楽しく過ごしています。おかげで子供やお年寄りから元気をもらっております。」と申し上げました。「これからも元気で励んでください。」とお言葉を賜り深く感動いたしました。

善行会事務局の方々、お世話いただいた方々に深く感謝いたしております、本当にありがとうございました。

東京都台東区　轟　豊藏

この度、皇太子殿下にご接見の機会をいただき感謝の気持ちで一杯です。殿下が私の前にお止まりになりました時に「台東支部長の轟です。浅草は浅草寺や雷門のあたりは賑やかですが、浅草北部は寂しくて商店街もシャッター通りで閑散としております。少しでも街に活気が出ればと四十三年前から玉姫神社で靴の感謝セールをしています。浅草北部は、古くから靴の街で、玉姫神社の氏子有志が一年間造り売り健康で過ごせたことに感謝する祭市です。期間中は、靴の男神輿と女神輿が境内を練り歩き会場を盛り上げます」。と申し上げました。そこで殿下から「どうやって商店街の発展にするのですか？」とご質問をいただきました。「大勢の方々にまずは靴の祭り市にお越しいただき、その行き帰りに近隣の商店街にも足を向けていただこうと考えています」。と申し上げました。殿下より「頑張って下さい」。と激励をいただきました。殿下のお言葉を励みにこれからもより一層努力を重ねていきたいと思います。このように得難い機会を与えてくださった日本善行会にも感謝申し上げます。

愛媛県四国中央市　西川　康子

さわやかな秋晴れの十月二十一日、皇太子殿下の御接見の栄を賜り、有難く感謝申し上げます。和やかな中にも自然と緊張感が高まりつつ、明治記念館から東宮御所「日月の間」に案内された途端に身の引き締まる思いでいっぱいでお待ち申し上げていました。まもなく皇太子殿下が、お出ましになり前列の一人一人に、にこやかに心優しくお声をおかけになるお姿を間近に拝見できいよいよ私の番、前列の中央に案内され、緊張感一杯の中、「どのような活動をされましたか」とご下問され、「私は自分の子供が成人したものですから、次の時代の子供たちの見守り、手助けさせてもらっています。活動して行くうちに、かえって子供たちのパワーをもらい元気に活動させてもらっています。」とお答えすると「これからもお元気で続けて下さいね」とおやさしいお言葉を賜り、改めて感激し人生最良の忘れがたき一日となりました。殿下からの励ましのお言葉を心の糧にこれからも頑張っていく決意を新たに致しました。

岩手県盛岡市　岩間　多恵子

この度、長寿善行者として東宮御所にお招きをいただき、皇太子殿下とご接見の栄誉を賜り、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

ご参内の十月三十一日は晴天に恵まれ、集合場所の明治記念館に歩みを進め、全国百十八名のご接見者と、係の方の指示に従い説明を受けまして、記念撮影・会食後、東宮御所に参内され、名前を呼ばれて前列の席にご案内を頂きました。

緊張しながら着席し日月の間の絵画を拝見しながら皇太子殿下の入室をお待ちしました。まもなく皇太子殿下が優しい笑顔でお出ましになられて正面中央にお立ちになり、勝野副会長よりご挨拶があり、参内代表者よりご接見の栄誉に御礼の言葉が述べられたあと、皇太子殿下よりお言葉を賜りました。皇太子殿下は前列の皆さんに近づき、私の前にもお立ちになりまして、「どんな活動をされておりますか」とお訪ねになりましたので毎年、春・秋の全国交通安全運動に「千羽鶴」を作成し、交通安全活動と使用済み切手を十万枚を目標に収集しており、現在八万九千三百枚で、十万枚になりましたら、アジアの子供たちのワクチン接種のため社会福祉協議会を通じてアジアへ届ける活動をしておりますと語りました。皇太子殿下は、「岩手県も復興はまだまだです。お体を大切にして活動を続けて下さい」と、やさしい励ましのお言葉を頂き、私はお言葉を胸に秘め、感謝をし東宮御所より退出しました。

事務局より記念写真と記念品の皇室のカレンダーをいただいて、ご接見の興奮覚め止まぬままに帰郷して参りました。

善行会本部、事務局の皆さん大変お世話になり、ありがとうございました。

支部だより

大分県大分支部

一般社団法人日本善行会第十回九州支部協議会大分大会を終えて

去る九月三十日～十月一日にかけ、第十回九州支部協議会大分大会が、総会も含め大分支部担当のもと、九州各県十支部八十余名の善行会員、及び本部から山下常務理事他、地元からは大分市長をはじめ多数の来賓をお招きして、大分市の豊の国健康ランドで開催されました。

初日は、九州支部協議会・支部長会議・十周年式典・総会と順調に協議が進み・各支部活動報告後、夜の懇親会が開催されました。

懇親会では、フグ刺し懐石料理を味わっていただきながら、オープニングに勇壮な「いかずち太鼓」で始まり、本部役員や県外支部会員による余興、大分支部会員のおもてなし余興等で大変盛り上がり、宴会時間を大幅にオーバーし閉会いたしました。最後には大分松井支部長作詞作曲の「めじろん音頭」（メジロは大分県鳥）で締めくくられました。

二日目は、本部石毛理事による「世のため人のために生きよ、三万人の孫を持つ男」と言う演題で、素晴らしい活動内容のご講演の後、高崎山（野生サルの自然公園）をご案内して散会致しました。

私どもは心をこめまして、大会準備とおもてなしを致したつもりですが、至らなかった点につきましては、お許しを頂ければ有り難く、各支部会員の皆様方のご協力に感謝申し上げます。

また、大分支部発足十周年も兼ねておりまして、十周年記念誌も発行、今後の会員増強に生かす予定です。本大会を機に「善は愛から勇気から」を合言葉に、善行会発展に会員一同努めたいと思います。

4面へつづく